

303 IVF at Office

広島県・高橋婦人科・HARTクリニック
高橋克彦、竹中真奈美

【目的】体外受精、胚移植(IVF)や顕微授精が無床診療所で安全かつ効率的に実施できることを報告する。【方法】ビル3階の無床診療所にて1990年10月より1992年8月迄にIVFを306名の患者に516周期施行した。原則として日曜日は採卵、胚移植は実施しないが、祝日は行なっている。卵巣刺激法はGnRH+HMG long法を主としHCG投与36~38時間後に採卵を行なう。採卵は局所麻酔にて実施、採卵後1~2時間の安静で帰宅、4日間の抗生物質を投与する。採卵48時間後に胚移植、2時間の安静にて帰宅、以後隔日のプロゲステロン投与を行ない、胚移植後14日目に妊娠反応を施行、陽性の場合には毎週心拍確認迄超音波検査を行ない、その後希望する産院へ紹介している。【成績】中等度の卵巣過剰刺激症候群以外に副作用、合併症は認めていない。77例の妊娠を確認(周期当り14.9%、患者当り25.6%)、内、顕微授精にて10名妊娠している。32名が34人の正常児を出産、35名が妊娠継続中、10名が流産であった。(13.0%)
【結論】大学、公的病院が週休2日制に移行する現在、IVFの施行はますます難しくなっている。むしろ個人開業医院の方が効率的であり、また無床でも十分な成績が得られる事が明らかとなった。

304 IVF-ET及びGIFTは児にいかなる影響を与えるか：出生児129名の分析から見て

自治医大
本山光博、荒木重雄、佐山雅昭、北原毅人、
小池俊光、出居貞義、玉田太朗

【目的】IVF-ET及びGIFTに伴う配偶子・胚操作、その後の多胎妊娠や卵巣過剰刺激症候群等がもたらす子宮内環境の胎児に及ぼす影響が危惧されている。そこで、これら療法により生まれた児の追跡調査を行った。【方法】過去3年余のIVF-ET及びGIFTにより妊娠した171例のうち既に分娩した98例129名の児を対象にした。妊娠・分娩経過及び身体・精神・運動機能発達について調査した。【成績】妊娠成立時の治療法はIVF-ET20例、GIFT78例であった。多胎は33例(34.0%)、早産24例(24.7%)、正期産74例(75.3%)であった。主に早産・多胎に起因する低体重児は1000g未満5名(3.9%)、1000g以上1500g未満6名(4.4%)、1500g以上2500g未満51名(39.5%)であった。アプガースコアは7点以下13名、8点以上116名であった。生下時体重 $2694 \pm 91\text{g}$ ($m \pm S.E.$)、身長 $47.4 \pm 0.3\text{cm}$ と有意に標準を下まわったが、生後6ヶ月から1年での平均値は標準のそれとほぼ同じ程度であった。精神・運動機能を示す各種パラメーター(四肢の活動、情動反応等)の平均出現時期は正常の発育段階の範囲にあった。しかし、個々の例をみると14例(10.9%)に身体・精神・運動発育に遅延を思わせる例が認められた。先天奇形としてファローの4徴、多発奇形、兎唇口蓋裂、裂手症がそれぞれ一例ずつ認められた。後者の2例は遺伝的因子の関与が示唆された。【結論】IVF-ET・GIFTにより生まれた児は主に多胎に伴う早産児が4分の1を占め低体重児の出現頻度は有意に高い。しかし少数例を除き生後数カ月以内に身体精神発達は標準の域に達する。心奇形の発生が2例に認められたが、これが偶発的なものか否か今後多数例での調査が必要である。